

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2773801267
法人名	医療法人 昌円会
事業所名	医療法人 昌円会 グループホーム華はびきの
訪問調査日	平成 20 年 9 月 30 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 10 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2773801267
法人名	医療法人 昌円会
事業所名	医療法人 昌円会 グループホーム華はびきの
所在地	大阪府羽曳野市島泉8-5-19 (電話) 072-955-8800

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成20年11月10日

【情報提供票より】(20年9月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	15 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 15.0 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 3階建
	3階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有(200,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(9月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 昌円会 高村病院 芝池歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

華はびきのは緑豊かな綾南の森、御陵の近くにありアットホームな明るい感じのグループホームである。医療法人昌円会高村病院を母体として老人保健施設あったか村、通所リハビリテーション、訪問看護、訪問介護等、数事業のサービスをグループ展開している。これら併設施設と情報を共有し連携をとりながら利用者に安心感と上質なサービスを提供している。理念に「華やかな笑顔でつなぐ心と心地域と歩む華はびきの」と謳い、なじみの関係を大事にし、地域住民との交流による開かれたホームを目指している。職員の定着率も非常に高く、ゆとりのある人員配置となっているので、入浴も希望者は毎日入浴する事も可能である。また行事や人手を要す時は、職員は休日を返上してボランティアとして取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①介護計画の短期目標を設定し見直しを行う②鍵をかけないケアの実践の2点が改善課題としてあげられた。①については短期目標を掲げ3ヶ月に1回の見直しと状態の変化による対応がなされ改善されている。②については利用者の気持や立場に立った支援を行い、前向きに全職員で取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、ホーム管理者や主任が中心となってスタッフ全員で取り組み、改善点を見出し評価検討を行っている。結果は全員に周知され、研修に取り入れ、日々のケアに反映される様、サービスの改善に向け努力されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月に1度定期的に行われている。会議には、利用者およびその家族、市町村職員、地域包括支援センター職員、施設管理者及び計画作成担当者などが出席し、活発な意見交換の場となっている。ホームの現状報告や問題点、家族などの意向を踏まえた貴重な意見は、サービスに反映されるように取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議や家族会にて希望や要望を聞き取っている。またアンケートや、苦情箱の設置、介護相談員の受け入れもあり利用者の気持を受け止めるよう支援されている。それらを運営に反映させるべく日々取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 夏祭りには地元の方々を招き交流を図っている。当ホームで年3回、家族介護教室を開催し、高鷲北小学校の生徒がデイサービスの見学に訪れたり、ボランティアの受け入れも活発である。近くの図書館に出かけ、散歩で挨拶を交わすなど日常的な連携がよくとれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「華やかな笑顔でつなぐ心と心、地域と歩む華はびきの」と謳われ、家庭的な環境のもとで地域の方々との交流や関係を考慮され職員全員で考えたものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目につきやすい場所に掲示され朝のミーティングで唱和することにより職員の意識付けを行なっている。常に利用者の笑顔を頭におき日々理念の実践に向けた取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会長や民生委員との連携を持ち公民館の催しにも参加し、地元の方々と積極的に交流を図っている。近隣住民の方々やボランティアの受け入れも活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価及び自己評価の意義について話し合い、ホーム管理者や主任が中心となってスタッフ全員で取り組み、改善点を見い出し評価検討がおこなわれている。結果は全員に周知され研修に取り込みサービスの改善に活用されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度定期的に行われている。会議には、利用者およびその家族、市町村職員、地域包括支援センター職員、施設管理者及び計画作成担当者などが出席し、活発な意見交換の場となっている。そこでの問題点や貴重な意見はサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	羽曳野市高年介護課とは情報交換や連絡を行い行き来している。家族介護教室も当ホームで開催し、他のグループホームと協同で実施するなどして市町村や他事業所とも交流を図っている。地域に開かれたホームとして前向きに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いは原則現金払いなので毎月1回の来所時に利用者の近況や健康状態を報告すると共に預かり金の残高の確認も行っている。また華便り、華行事を発行しホーム内の様子伝えている。場合によっては電話でもお伝えしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会またはアンケートなどにより要望や意見、話しにくい事などを聞き取り、それらを運営に反映させる様に取り組んでいる。介護相談員の受け入れもあり利用者の気持を受け止めるよう支援されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職者は少なく、常に各ユニットにはゆとりのある人員を配置している。引継ぎの期間は十分に確保し入居者のダメージを防ぐ支援がなされ、安定したサービス提供が行われている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療法人が主催する研修や、年間研修計画に基づく施設内研修も定期的実施している。特に法人内に感染対策委員会を設け接遇、感染に力を入れ伝達研修により共有化され職員のレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	羽曳野市の7つのグルーホームによるグループホーム部会に参加している。当会の同業者との研修、交流を通じて、情報交換とサービスの向上に努めている。また施設見学を行い相互研修の機会を設け前向きに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の在宅の状況を把握して、施設内の見学や、併設している各種のサービスを体験して頂き利用者や家族の方の理解を得ながら徐々に馴染んで頂く工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方々の生活歴を把握し残存能力を活かしその人らしい生活が出来るよう支援している。役割を持ち力を発揮できるように協働しながら支えあう関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報提供やアセスメントシートにより職員間での情報を共有しているが、施設内での利用者との対話や、観察により発見できることも多いので家族とも相談しながら本人本位での対応に心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを実施して家族や利用者のニーズを踏まえながら関係者と話し合い職員全員で情報収集をして介護計画の作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期目標を掲げ3ヶ月に1回見直しを行っている。サービス担当者会議も毎月1回行い、利用者の入退院や体調変化、家族の要望に応じて随時介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	予定外の医療機関への受診や送迎、外泊や理容、美容の支援など、柔軟に対応しながら利用者の満足度を高める支援につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は家族同行を原則としているが、ケースバイケースで職員が家族の同意を得て同行する等、柔軟に対応している。また本人と家族の納得の行くかかりつけ医での受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ゆれ動く家族の気持ちを受容し、終末期のあり方や方針を関係者、職員全員で共有すると共に状況の変化に応じて、関係医療機関とも連携を密にし現段階は病院への搬送が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	母体の医療法人内で接遇委員会を毎月1回実施し、その結果を持ち帰り勉強会や、ミーティングを通じてプライバシーの確保について徹底的に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、洗濯、買い物、散歩等についても利用者の状態を配慮しながら、できる限り柔軟な対応ができるように心がけている。ドライブやお散歩など希望に添って支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食卓を囲み、さりげなく声をかけ介助されている。また利用者が力を出せる食事の用意や食卓を拭く事や食器洗いなどは一緒にされている。楽しみごとの1つでもある外食や出前で気分転換を図っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を優先した入浴ができるよう、フリーの職員を配置している。また、利用者の状況を判断して、機械浴のできる設備や足浴の実施も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野が発揮できるよう、空き地を利用した花や野菜作りの世話、趣味を利用したカラオケ、絵画、習字、詩吟、図書館利用による読書、お祭りや各種行事への参加を通じ気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物には利用者の希望に沿う努力をしながら、遠足やドライブも定期的実施して戸外に多く出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、キーの操作が必要で利用者は自由に外出しにくい状況である。職員はこのような弊害をよく理解して、利用者の立場にたつて外出願望や帰宅願望を察知すると、声がけと共に外出支援に取り組んでいるが、未だ努力の余地があると思える。	○	建物の構造上またはホーム前の車道の往來を考えるとキー操作は、いたし方のない部分もあるが、自由に外出できない利用者の立場を考慮して更に前向きな検討を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火計画や対応マニュアルに基づき年2回利用者と共に避難訓練を行っている。また、当施設が避難場所の指定を受けており地域との連携は整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会を設置し、管理栄養士のアドバイスを受け利用者個々の栄養バランスに留意している。利用者の食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記載して健康状態の変化を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアは南向きで明るくて眺めもよい。ゆったりとくつろげるよう配慮されている。また、フロア内に展示されている利用者の作品からも季節感が分かるよう工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン、照明器具、整理ダンス、ベッド、椅子が用意されている。カーテン等は好みのものに変更が可能である。使い慣れた日用品の持込も自由に住みなれた家庭にいるように居心地よく暮らせる支援がなされている。		